

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	中野 正祥
論文担当者	主査 五味 文
	副査 垣淵 正男
	副査 黒田 悦史
学位論文名	Thyroid-Stimulating Antibody/Thyroid-Stimulating Hormone Receptor Antibody Ratio as a Sensitive Screening Test for Active Graves' Orbitopathy (甲状腺刺激抗体/甲状腺刺激ホルモン受容体抗体比は活動性グレーブス病眼症の鋭敏なスクリーニング検査である)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>バセドウ病の合併症の一つであるバセドウ病眼症は、患者の QOL を著しく低下させることから、早期診断と早期介入が重要である。通常は MRI 検査による眼筋肥厚の評価と、血中甲状腺刺激抗体 (Thyroid-stimulating antibody: TSAb) 価の測定により、眼症の活動性を総合的に調べているが、申請者らはより高感度で陰性的中率の高い検査手法を見出すことを目的として本研究を行った。</p> <p>2014 年 4 月から 2020 年 5 月に当院において眼窩 MRI 検査が施行された 86 名のバセドウ病患者を対象として、血清中の甲状腺刺激ホルモン (Thyroid-stimulating hormone: TSH)、遊離トリヨードサイロニン (Free T3)、遊離サイロキシニン (Free T4)、TSAb、TSH 受容体抗体 (TSH receptor antibody: TRAb) 等の検査データを後ろ向きに解析し、MRI 所見での眼症の有無と、各種血液検査結果との関係性を検討した。</p> <p>その結果、TSAb / TRAb 比は、81% の正診率で MRI の結果を区別することが可能であった。T3 優位型バセドウ病患者を除外すると、TSAb / TRAb 比は 92% の正診率で MRI 検査結果を識別できた。Receiver operating characteristic curve (ROC) 解析の結果をもとに、TSAb / TRAb 比のカットオフ値を 87 とすると、MRI 検査結果に対する感度、特異度、陽性尤度比、陰性尤度比はそれぞれ 91%、95%、18.2、0.0957 であり、これは TSAb 単独での評価より、眼症の診断精度が高かった。</p> <p>以上から申請者らは TSAb / TRAb 比は、T3 優位型ではないバセドウ病患者における活動性眼症の高感度かつ特異的な指標であり、プライマリケア環境における活動性眼症のスクリーニング検査として有用と結論付けた。臨床に直結する大変重要な知見であり、学位論文に値すると判断した。</p>	